

# 平成 28 年度 鳴門教育大学 地域連携センター活動報告

## 1. 概 要

所在地：〒 772-8502 徳島県鳴門市鳴門町高島字中島 748 番地

TEL 088-687-6101 FAX 687-6100

WEB <http://www.naruto-u.ac.jp/center/ccc/>

## 2. 教員名簿

- |  |                      |       |
|--|----------------------|-------|
| (1) センター所長 (命) 教授 (高度学校教育実践専攻)           | 阪根 健二                |       |
| (2) 教育連携コーディネート分野 (併) 教授 (高度学校教育実践専攻)    | 阪根 健二                |       |
|  | 講師 (高度学校教育実践専攻)      | 泰山 裕  |
| 同  | 講師 (大学連携 e-Learning) | 竹口 幸志 |
| (3) 教育情報コミュニケーション分野 (併) 准教授 (高度学校教育実践専攻) | 藤原 伸彦                |       |
| 他, センター事務員, 国内客員研究員, 外国人客員研究員在籍          |                      |       |

## 3. 活動報告

本センターでは、平成 20 年度から組織改革に着手し、センター教員配置については、学内の学校教育研究科各専攻等から、兼務 (併任) する形式となった。また、平成 22 年度からは、“社会連携 (地域連携)” を主に、“教育連携コーディネート分野” 及び “教育情報コミュニケーション分野” の 2 部門となり、現在に至っている。本センターは、他の大学における教育実践センター組織とは異なり、教育臨床部門、実地教育部門は、学内の他の専門センターで対応しており、現在設置の 2 分野は、生涯学習センター的な要素を持ちつつ、学校教育への支援を行うといった特徴を有している。なお、地域連携の要である「公開講座」等は、本学では地域連携委員会 (全学組織) で運営しているが、本センター業務の一環として、その庶務・渉外を担当している。事務関係では、公開講座、教育支援講師派遣、教育相談対応など多方面での担当を、事務担当係で運営している。

平成 26 年度から、四国 5 大学連携防災・減災研究教育協議会の一員として、防災教育担当 (教育連携コーディネート分野) を新設し、香川大学と徳島大学との間で遠隔授業を実施している。

平成 27 年度からは、家庭学習の調査研究、及び「サテライト研修室 (つながルーム)」の設置のため、徳島県教育委員会から 2 名の研究生 (現職教員) 受け入れ、学力向上対策、県内教員研修のネットワーク化について、研究活動を行った。なお、研究生は、本年度に徳島県総合教育センター指導主事を拝命し、国内客員研究員として研究を継続している。

平成 28 年度から、徳島県教育文化研究所との共同研究を開始し、授業向上力研修を、遠隔講義システムを活用して実施した。

以下、年間活動状況等について、分野別に記載する。

### (1) 教育連携コーディネート分野

#### ア. 地域連携委員会との連携 (事業の企画, 渉外)

第 42 回鳴門教育大学教育・文化フォーラム (平成 28 年 8 月 8 日 本学講堂) を実施した。テーマは「学級経営を考える - Q - U をどう生かすか -」であり、遠隔講義システムを活用して、美馬市にも配信した。参加者は現職教員及び一般市民 (299 名) であった。

#### イ. 学校・地域連携

(ア) 教育委員会等行政機関や諸団体と連携し、学校現場における今日的な課題の解決のため、各種の調査研究で

連携した。特に、家庭学習については、阿南市及び美馬市の約1,600名の児童生徒の生活実態調査を行い、その結果から作成した家庭学習ノート（家庭学習の友）を配布し、実践研究を開始した。その成果を中間報告として、リーフレットで広報を行った。

- (イ) 県及び市教育委員会との連絡、各種団体との連絡調整（アドバイザー）を行った。
- (ウ) 香川県東かがわ市土曜授業運営事業に参画した。東かがわ市立白鳥小学校で、自習支援・スポーツ支援、ブロック遊び支援を行った。（平成28年5月から平成29年2月までの6回：参加学生のべ300名）
- (エ) おもちゃ王国との産学共同研究として、外部資金を獲得するとともに、岡山県玉野市おもちゃ王国での現地実習を行った。（12月18日：参加学生20名参加）また、研究成果を元に、ブロック教材「はじめてセット」を開発し、商品化した。
- (オ) 徳島県知事部局との連携として、防災実習を行った。（平成28年12月10日：学生80名参加）また、徳島県南部県民局の防災減災委員を努め、徳島県の防災に尽力した。
- (カ) 鳴門市教育委員会との連絡調整を図り、地域連携センター国内客員研究員制度を継続・発展させ、教育研究の充実を図った。また、徳島県教育委員会から派遣された指導主事（2名）を国内客員研究員として、家庭教育研究に従事させた。
- (キ) センター広報誌「あわ教育ネットワーク通信」第25号を発行した。（平成29年3月31日）鳴門市内公立小・中学校教員を中心に県内教育関係者に配布した。
- (ク) 社団法人「教育支援人材認証協会」における教育支援人材育成業務として、パートナー講座、サポーター講座の実施と認証業務の支援を行った。（49名参加）
- (ケ) 四国5大学連携防災・減災研究教育協議会の一員として、運営会議に参加すると共に、香川大学と徳島大学との間で、四国防災危機管理特別プログラムの遠隔授業科目を遠隔講義システムにより試行的に開講した。（火曜日5校時）また、防災関連資料として、「学校が避難所になったら」のリーフレットを作成した。
- (コ) サテライト機材を、本学及び阿南市、美馬市に設置し、遠隔講義の運用を行った。
- (サ) 徳島県教育文化研究所との共同研究で、県内で卓越した教員の模擬授業を実施し、遠隔講義システムで県内に配信した。（84名参加）なお、成果報告を冊子としてまとめた。

## ウ. 対外的事業等

- (ア) 徳島県内の大学と徳島県教育委員会との連携に関する連絡協議会「専門部会（高大接続・連携部会）」の委員として連携事業を推進した。
- (イ) 徳島県教育委員会、香川県教育委員会等の各種委員会に委員として参画した。
- (ウ) 教育支援講師・アドバイザーとして、県内小中高校で出前授業を実施した。また、各教育委員会関係での講演活動を行った。
- (エ) 毎日新聞四国版の教育コラムを連載（毎週土曜日：継続中）した。

## (2) 教育情報コミュニケーション分野

### ア. 学校・地域におけるICTを活用した実践の支援

本分野はICTの活用に関する鳴門市との連携の窓口となっており、鳴門市教育の情報化推進協議会のメンバーとして以下の支援を行った。具体的には、鳴門市教育委員会教育支援室および鳴門市小学校と連携し、鳴門市幼稚園・小学校・中学校におけるICTの活用の支援や助言を行った。

### イ. 学校・地域連携

- (ア) なるっ子わくわく教室の事業として、子ども向け美術鑑賞ワークショップ「N\*CAP」の企画・推進を行った。
- (イ) 県内の小学校教諭や、学生、一般ボランティアとの協同により、「鳴門教育大学 教育と学校を考える会 子ども歩き遍路」を企画、実施した。

## (3) その他の活動

### ア. 学校教育研究紀要の発行

従来の継続事業として、学校教育研究紀要第31号を発行した。（平成29年2月）

## イ. 地域連携委員会との連携事業

### (ア) 公開講座, なるっ子わくわく教室 (大学開放推進事業)

- ① 公開講座は, 大学における教育研究の成果を広く社会に公開し, 社会人の教養を高めることなどを目的に開設し, その実施の実務 (事務) を担当した。(15 講座, 延べ 324 名)
- ② なるっ子わくわく教室は, 地域開放, 地域連携という観点から主に子どもたち向けの体験活動等を提供するものであり, その実施の実務 (事務) を担当した。(7 講座, 延べ 270 名)

### (イ) 教育支援講師・アドバイザー等派遣事業

学校教員, 児童・生徒, 保護者を対象にして, 教育支援講師・アドバイザー等 (校内研修会, 授業実践, 指導方法や課題解決の助言, 専門的活動等) を組織し派遣するため, その実施の実務 (事務) を担当した。その他, 社会連携課地域連携係職務との連携などを行った。

### (ウ) 客員研究員の研究支援

客員研究員の招聘と研究環境の支援を行った。

## ウ. 外部資金導入

おもちゃ王国との産学共同研究 (代表者 阪根健二: 500,000 円)

徳島県教育文化研究所との共同研究 (代表者 阪根健二: 200,000 円)